

情報公開文書

【研究課題名】

高解像度マノメトリー検査(HRM)を用いた進行期パーキンソン病患者における嚥下障害に対するレボドパの効果に関する研究

1. 研究の目的

パーキンソン病 (Parkinson's disease: PD) では、進行期に嚥下障害を合併することがしばしばです。この嚥下障害は PD 患者の QOL を著しく低下させる要因の一つです。レボドパの薬物療法は PD の運動症状を改善させますが、進行期の嚥下障害に対する効果は未だ明確ではありません。

近年開発された高解像度咽頭食道内圧検査 (High-resolution manometry: HRM) は従来検査と比較してより詳細な嚥下に関する評価が可能です。

本研究では、HRM を用いて進行期 PD 患者におけるレボドパ内服前後の嚥下運動の変化を詳細に調べることで、レボドパが進行期 PD 患者の嚥下機能に与える影響を明らかにすることを目的としています。

2. 研究の方法

●対象となる患者さん

パーキンソン病の患者さんで、2024年10月～11月に当院でHRM検査を受けた方

●研究期間

2024年12月1日から2025年11月30日

●研究に用いる検体・診療情報の種類

診療情報：HRM検査の結果(咽頭収縮圧、上部食道括約筋(UES)弛緩時間・上部食道括約筋(UES)弛緩圧、食道収縮圧)、及びパーキンソン病運動機能評価 (MDS-UPDRS part III スコア)、等

3. 試料・情報の利用を開始する予定日

2024年12月1日

4. 検体・診療情報の管理

診療情報は、当院のみで利用します。

<この研究での検体・診療情報等の取扱い>

宇多野病院生命倫理委員会の承認を受けた研究計画書に従い、診療情報等は、お名前、住所等、個人を直ちに判別できる情報は削除し、研究用の番号を付けます。当院の研究責任者は、研究用の番号とあなたの名前を結びつける情報も含めて、責任をもって適切に管理いたします。

5. 研究組織

この研究は当院のみで実施されます。

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

独立行政法人国立病院機構 宇多野病院
京都市右京区鳴滝音戸山町8
電話番号（代表）075-461-5121

研究責任者： 脳神経内科 富田 聡